

市指定文化財<史跡>

たかとりじょうあと
鷹取城跡

指定日 昭和41年4月15日

所在地 菊池市龍門 染土



別名染土城ともいい、染土集落から見上げた比高120mほどの急な斜面を登った丘陵地にある。城跡は瓢箪型ひょうたんのかなり広い平坦地で、伝説に残る「鎮西八郎為朝」を供養した板碑が建っている。代々原田氏の居城で初代の城主は原田五郎である。良成親王も一時在城したともいわれており豊後方面の備えとして重要な城だったようである。

歴史上に登場するのは迫間川を挟んで対岸にある寺尾野城で、京都で捕らわれていたはずの13代武重が弟武敏と共に旗揚げした。この情報は直ちに博多の九州探題に報告されたが、険しい山と谷に囲まれた地形であったためか、記録に残るほどの戦いには至らなかったようである。

掛幕、市成城は豊後、阿蘇方面からの襲来に備える最前線にあり、次の守備に元居、五社尾城があるが、これらの城と菊池本城との中間に位置する鷹取城は、各城との陸路連絡が容易であったと思われる。